

妻と子が おりて
勤労感謝の日
忠文

神戸市会議員

ただ ふみ

うらがみ忠文新聞

2016年
秋冬の号

もっともっと おせっかいな市役所に。

小学校の頃を思い出してみてください。出席をとる時、先生は必ず皆さんひとりひとりの名前を呼んでくれますか。浦上君「はい」「久元君」「はい」という調子です。

学校は、先生が顔を見て名前を呼んで、生徒が返事をするやりとりによって、クラスに元気を生んでいたのです。

名前を呼ぶということは、相手に対する最大の賛辞でもあります。

教育、医療、介護、保育、仕事づくり、格差など、社会の課題は多様化し複雑になり、手助けを必要とする人が増えています。

市民全員が、いさいきと暮らせる社会を創り出していくのが政治、行政の使命です。

使命を履行！

市役所が、先生のように「明るい笑顔」で市民に向き合うのがスタートです。

百五十二万神戸市民ひとりひとりに声をかける市役所を創ってまいります。

うらがみ忠文

- ・1969年 慶應義塾大学法学部政治学科卒
- ・元 大丸神戸店「くじゃく通信」編集長
- ・元 神戸市立御影北小学校 PTA会長
- ・NPO 障がい者就労支援作業所 副理事長
- ・1995年 神戸市会議員初当選
- ・2015年 神戸市会議員6選
- ・無所属「創造都市、福祉充実を目指す」

毎日発信のブログは、11年になりました。ありがたいことです。



JR住吉駅山側・シーア玄関前。みなと銀行住吉支店東隣り。お気軽に！

●「うらがみ忠文ネットワーク」談話室

〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町1-7-3 矢野ビル3F

TEL/FAX 078-841-1042 Eメール tadafumi@uragami.jp

うらがみ忠文

検索

●〒650-8570 神戸市中央区加納町6-5-1 神戸市会無所属 浦上忠文発行 TEL 078-322-5863

【議会報告】

夏の本会議。私の一般質問の要旨。

■神戸市としても貧困対策に真剣に取り組んでいるところであるが、区役所の「くらしの支援窓口」が実施する支援だけで完結できる課題ばかりではないと感じている。

特に引きこもりの方など、社会から孤立して弱い立場に立っておられる人たちに対しては、行政だけでなく、広く地域とのかかわりの中で、地元での仕事づくりや居場所づくりなど、お互いに助け合っていけるような仕組みを作っていくべきと考えるが、見解を伺いたい。

★玉田副市長の答弁

生活困窮者の支援は、組織改正で本庁に担当部長を配置し、各区に担当係長をおくなど体制強化したが、行政だけでは完結できない。

各区社会福祉協議会と民生委員、住民を巻き込んでネットワーク会議を作り、孤立しがちな人を地域で見守り、支えるしくみづくりに力を入れる。

■ひとり親家庭などで、様々な課題を抱えている子どもたちには、家とは別に食事や学習ができる居場所を確保する必要があると思う。

今年度から実施されている「こども食堂」など、子どもの居場所づくりへの助成制度には大いに期待しており、支援のより一層の推進により、ひとりでも多くの子どもたちの笑顔に接したいと思うが、市長はどう考えておられるか。

★久元市長の答弁

夜遅くまでひとりで過ごすなど、課題を抱える子どもたちが増加している。

このため本年度予算では、食事や学習や団らんなどを通じて安心して過ごせる居場所づくりに取り組む地域団体に補助をすることとした。

神戸市の予算の内容は、政令指定都市ではトップクラスであるが、このような支援は継続的に行う必要があるので、様々な主体が子どもの居場所づくりに積極的に取り組む神戸のまちにして行きたい。

心に響く答弁と行動を
引き出せるよう、さらに
いっそうがんばります！
浦上忠文

